

## 2022 年前・後期 授業改善アンケート集計結果に対する意見

—キャリアセンター—

センター長 南山 浩二

全学共通教育科目のキャリアセンター開講科目での授業改善アンケート実施対象科目は20科目であり、その内16科目においてアンケートが実施されました。

授業全体に対する評価である項目14「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」は、4.70と昨年度(4.56)に引き続き高評価を維持しています。さらに、項目14「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」と、項目12「この分野への興味・関心が引き起こされた」(相関係数0.75)、項目13「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」(相関係数0.76)などが、強い正の相関関係を示しています。以上のことから、学生の学修状況もふまえながら適切に授業運営が行われていると言えます。

また、授業に用いられた授業手法ですが、グループワーク(回答率:68.3%)、ディスカッション(回答率:47.2%)、プレゼンテーション(回答率:47.2%)、外部講師招聘(回答率:57.4%)などの回答率が高く、これらがキャリアセンター開講科目の特徴的な授業手法となっていると言えます。こうした特徴に加えて、「質疑応答」(回答率:41.1%)や「学生によるコメントペーパー」(回答率:48.7%)も回答率が高く、学生の学修状況をふまえて学生の主体的な取り組みを促す多様な授業手法がとられていることが分かります。

授業を通じて身についた資質・能力ですが、「この分野の知識、学力」(回答率:64.5%)の他に「コミュニケーション能力」(57.4%)、「柔軟な発想力」(46.0%)、「協働力」(40.4%)、「プレゼンテーション能力」(37.7%)、「人脈形成力」(37.0%)などで、高い回答率が得られています。また、「俯瞰力」「課題発見力」「課題解決力」などについても、大学全体と比較して高い回答率を示しています。これらのことから、キャリアセンター開講科目が大学ディプロマポリシーにもつながる多様な資質・能力を育成するきっかけとなっており、学生のリーダーシップを涵養し主体的行動を促す授業が行われていると言えるでしょう。

以上